

第2回 熊本都市圏3連絡道路 有識者委員会

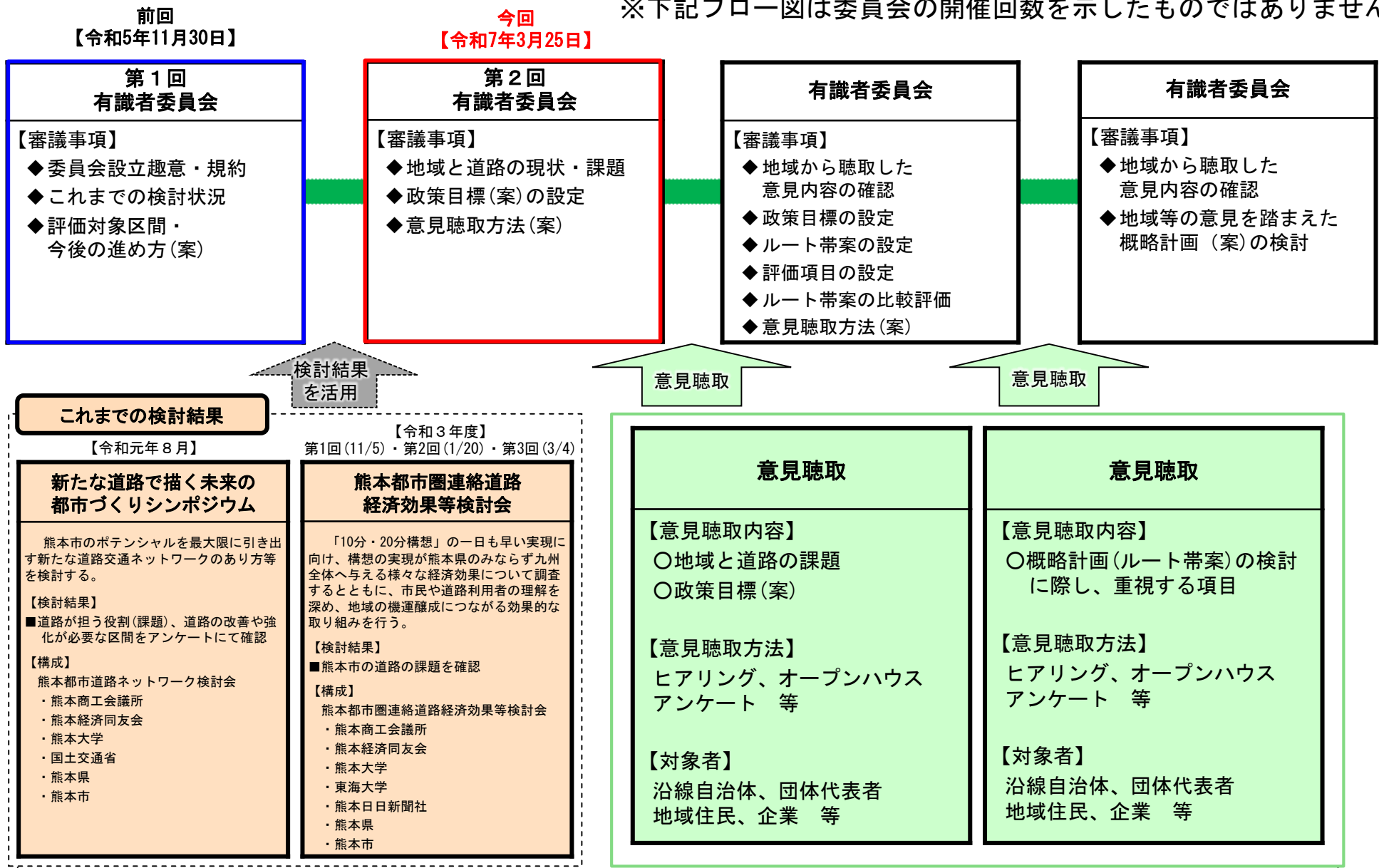
～第1回有識者委員会の振り返り～

令和7年3月25日

第1回有識者委員会の振り返り

今後の進め方

※下記フロー図は委員会の開催回数を示したものではありません。



- 令和5年11月30日に「第1回熊本都市圏3連絡道路有識者委員会」を開催した。
- 対象区間は、「熊本県新広域道路交通計画」に掲げた熊本市中心部から高速道路ICまでを約10分、熊本空港までを約20分で結ぶ「10分・20分構想」の実現のために位置付けられた新たな3つの高規格道路である。

●第1回熊本都市圏3連絡道路有識者委員会の実施概要

■実施日: 令和5年11月30日(木)

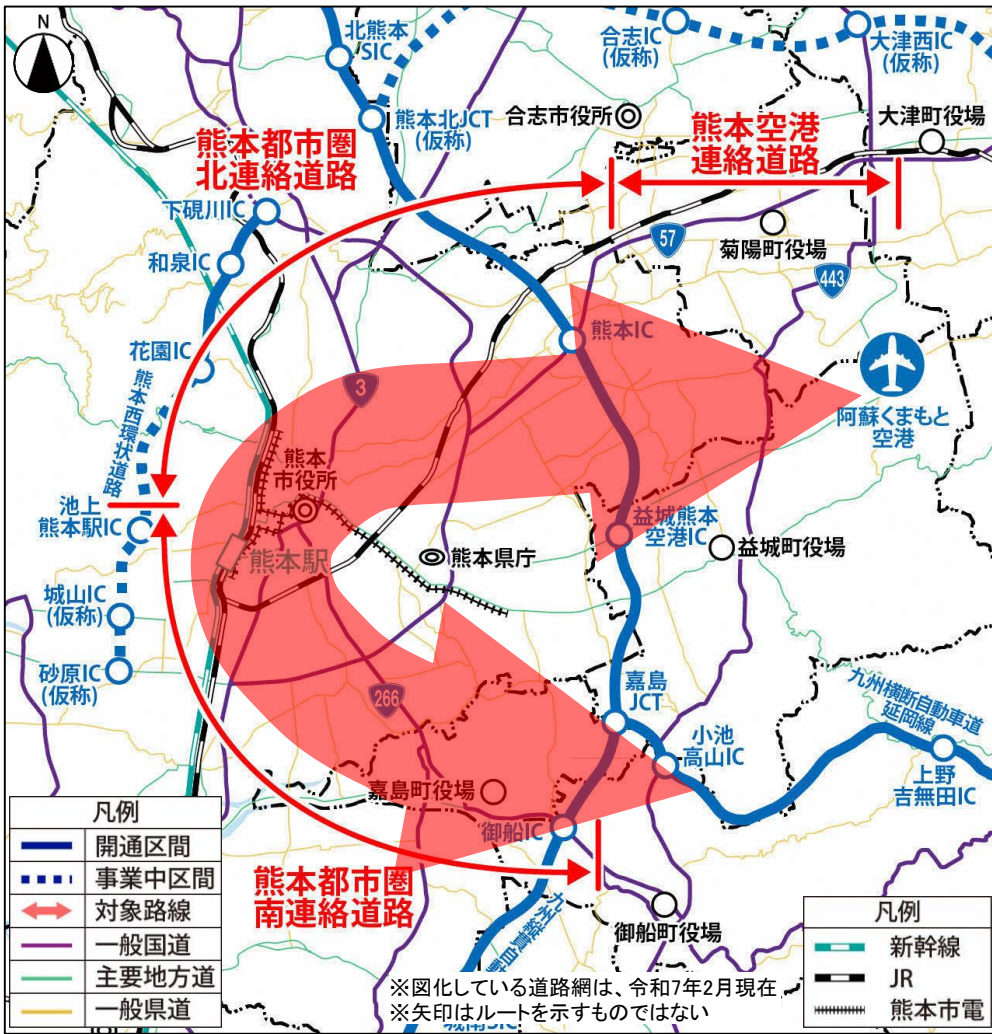
■主な議題

- (1) これまでの検討状況・要望広報活動
- (2) 評価対象区間・今後の進め方(案)



令和5年11月30日開催

▲第1回熊本都市圏3連絡道路有識者委員会の開催状況



▲対象区間位置図

●第1回 熊本都市圏3連絡道路有識者委員会における主なご意見と回答

◆今後の進め方について

主なご意見	回答
3つの道路を同時に検討することは、国が行う道路事業と比較すると非常に規模が大きい。アンケートに答える側の負担も大きくなることが想定されるため、今後の進め方については工夫が必要。	第1回意見聴取は、熊本都市圏の地域の現状や課題の全体像を把握するため、3路線同時に実施する。今後の進め方については、効率的な検討となるよう事務局において整理していく。
課題が含まれる内容について議論する際は、事業に関するリスクについて、正確な情報を住民や企業、専門家、行政等で共有し、相互に意思疎通を図ること(リスクコミュニケーション)を意識した検討プロセスが大事。	複数ルート帯案の比較評価を行う際には、事業に関するリスク(道路整備による生活環境や自然環境の影響等)についても評価項目として示し、情報共有を図っていく。 今後の検討の進め方では、複数回の意見聴取を行うこととしており、また、多様な媒体や機会を捉えて、幅広く情報提供し、様々な住民・関係者等と意思疎通を行っていく。
住民参加型により丁寧に計画検討を進めることは大事だが、一方でスピード感を持って取り組むことも重要。	スピード感を持ちつつ、住民などへの分かりやすい情報発信及び効率的な計画検討に努めていく。
やるべきプロセスを省略すると逆に時間がかかることもあるため、本委員会では、住民参加型の道路計画検討プロセスの合理性をしっかりと確認していくことが必要。	国で策定している「構想段階における道路計画策定プロセスガイドライン(H25.7)」に基づき、着実に計画検討を行うとともに、本委員会でその検討プロセスについても議論いただき、必要に応じて適宜見直しを行っていく。
有料道路制度を活用した場合のメリットやデメリットを早い段階で示すべき。	有料道路制度の活用を含めた事業手法についても、今後検討を進めていく。

●第1回 熊本都市圏3連絡道路有識者委員会における主なご意見と回答

◆概略計画の検討について

主なご意見	回答
熊本都市圏連絡道路経済効果等検討会は、TSMCの進出や物流の2024年問題がクローズアップされる前の議論だったため、このような社会情勢の変化にも着目すべき。	多くの半導体関連企業が熊本県内へ進出・設備投資を実施していることから、半導体製造企業や物流企業等へのヒアリング調査等を行い、資料に反映した。 今後も、様々な社会情勢の変化について最新の情報を収集し、適宜、計画検討に反映していく。
「九州を支える広域防災拠点構想」や「熊本市中心市街地活性化基本計画」など、既存計画との整合を図るべき。	政策目標の設定等において、各自治体の上位計画等に示された地域が目指す将来像との整合も図っていく。
道路整備による環境への影響についても、早い段階で示しながら検討を進めていくべき。	複数ルート帯案の比較評価を行う際には、道路整備による環境への影響についても示していく。

◆意見聴取の方法について

主なご意見	回答
最近はいんばうどの回復や、団体旅行やパッケージツアーではなく個人での海外旅行（FIT※）が増加しており、熊本を訪れた方々の中には、移動への不便さを感じている方もいると思われるため、観光客への意見聴取も必要。 ※FIT（Foreign Independent Tour）・・・団体旅行やパッケージツアーを利用するのではなく、個人で海外へ旅行に行くこと。	都市圏内で観光目的の来訪者も多く利用すると考えられる交通拠点（阿蘇くまもと空港等）や主要な観光施設（熊本城等）においてオープンハウスを実施するなど、観光客を含め、様々な住民・関係者等に対して幅広く意見を聴取していく。
これまでのアンケートの回答者は40～60代の方が多かったため、高校生など若い世代に答えてもらえる工夫が必要。	若い世代が回答しやすい環境をつくるため、紙でのアンケートと並行して、若い世代に浸透しているインターネット上でのアンケートを実施していく。併せて、SNSなどを活用した広報周知活動を行っていく。
関心がある方はアンケートに回答されるが、関心のない方や積極的な発言をしない方（サイレントマジョリティ）の意見を把握するためには、オープンハウスも有効な手段。	意見聴取は、アンケートだけでなく、双方向コミュニケーションが取れるように、団体・企業へのヒアリング、阿蘇くまもと空港や熊本駅、大規模商業施設などでのオープンハウスを実施していく。
アンケートを実施する際には、今回検討する概略計画（案）が何を意味するのかなど、内容を分かりやすく説明したうえで、道路整備による良い面も悪い面も両方示すとともに、住民の方からのポジティブな意見もネガティブな意見もしっかりと把握することが必要。	意見聴取時に専門用語等、分かりにくい表現にならないよう、意味する内容を説明する補足資料を作成する。 地域から聴取した意見内容を示す際には、ポジティブな意見だけでなく、ネガティブな意見も平等に整理、公表していく。